**あなたの腸は元気ですか？**

**今だから、知っておきたい「がん」のこと**

　がんは、今や日本人の2人に1人がかかるといわれている、とても身近で予防したい病気です。がんの治療は手術や薬物治療、放射線治療が一般的に行われていますが、体と心の両方につらさが伴います。

　今回は、がんの中でも特に死亡者が多く、見つかりにくいとされる「大腸がん」を取り上げ、早期発見・早期治療の大切さと、市が行っている支援について特集します。

健康推進課成人保健担当　23-5311

**死亡者が多い大腸がん**

　長さ１・５～2ｍの筒状の臓器でお腹の中をぐるりと時計回りに回って、食べ物の最後の通り道となるのが大腸です。大腸には、栄養素の消化吸収作用はほとんどなく、水分を吸収します。大腸に入った食べ物は、水分を吸い取られることで、肛門に至るまで固形の便になっていきます。

　「大腸がん」は、大腸の内側の壁（粘膜）にできるがんです。平成28年中に大腸がんで死亡した人は、男女合わせて5万681人（国立がん研究センター「がん登録・統計」）と全体のがん死亡者の中で2番目に多く、人ごとではない病気です。日本人の大腸がんの約7割はS状結腸と直腸にできるといわれています。

　大腸がんの発生は、生活習慣と深いかかわりがあるとされており、過度な飲酒や喫煙、肥満などが危険性を高めるといわれています。

　しかし、大腸がんの初期には、自覚できる症状がほとんどありません。代表的な症状である血便（血が混じった便）などは、痔などの病気にもみられ、「知らないうちにがんが進行していた」ということもあります。

**がんの死亡リスクを減らそう**

　がんによる死亡リスクは、がん検診などで早期に発見し、適切な治療を行うことで、減少させることができます。がん治療では、「治療の効果を最大限に得ること」と、「身体への負担を最小限に抑えること」が重要です。そのためには、詳細な診察と検査が必要であるため、定期的な健康診断やがん検診が欠かせないものとなります。

　大腸がんの罹患率は40歳代から増加し始め、50歳代から加速し、高齢になるほど高くなります。平成28年度おおさき市民健診で大腸がん検診を受けた人は１万５８５１人、そのうち要精密検査となった人は856人でした。精密検査の結果、がんがみつかり治療につながった人は60人いました。

　がんは、早期に発見し、早期に治療を始めることで、治癒する確率が高くなります。早期発見のために、大腸がん検診を定期的に受けましょう。

■平成28年中のがん死亡の多い部位（全国合計値）

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 1位 | 2位 | 3位 | 4位 | 5位 |
| 男性 | 肺  （53,002人） | 胃  （29,745人） | 大腸  （27,334人） | 肝臓  （17,822人） | 膵臓  （17,401人） |
| 女性 | 大腸  （23,347人） | 肺  （21,118人） | 膵臓  （16,823人） | 胃  （15,481人） | 乳房  （14,285人） |
| 合計 | 肺  （74,120人） | 大腸  （50,681人） | 胃  （45,226人） | 膵臓  （34,224人） | 肝臓  （27,114人） |

（出典：国立がん研究センター がん情報サービス「がん登録・統計」）

■平成28年中の部位別がん罹患者数（全国合計値）

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 1位 | 2位 | 3位 | 4位 | 5位 |
| 男性 | 胃  （92,691人） | 肺  （89,717人） | 大腸  （89,641人） | 前立腺  （83,790人） | 肝臓  （28,480人） |
| 女性 | 乳房  （94,848人） | 大腸  （68,476人） | 胃  （41,959人） | 肺  （41,634人） | 子宮  （28,076人） |
| 合計 | 大腸  （158,127人） | 胃  （134,650人） | 肺  （125,454人） | 乳房  （95,525人） | 前立腺  （89,717人） |

（出典：厚生労働省「全国がん登録」）

**平成31年度おおさき市民健診　申し込みは2月15日まで！**

　平成31年度「おおさき市民健診」の申込書を2月上旬までに世帯ごとに郵送します。市民健診を受ける・受けないにかかわらず、期限までに提出してください。

　なお、大崎市国民健康保険に加入する40歳から74歳までの人には、「特定健康診査」の受診票を郵送します。

**40歳を過ぎたら、年に1回 大腸がん検診を受けましょう**

　大腸がん検診では、便を採取し、その中に血液が混じっているかどうかをみます（便潜血反応検査）。便に潜血反応があると、精密検査の該当となります。

　がんは１回の検診で見つからないことや、精密検査までの間に急速に進行することが稀にあります。

　定期的に検診を受けることと、精密検査に該当した場合は、必ず受診することが大切です。

こんな症状が危ない！

**大腸がんの初期症状**

　次のような症状が当てはまる場合、大腸がんの初期症状の可能性があります。不安なときは、早めに医療機関を受診しましょう。

■便に血が混じる

■お腹が張る

■便が細くなる

■下痢と便秘を繰り返す

■便が残っている感じがある

■腹痛

■貧血

**がんと診断されたら**

　がんと診断されたら、本人はもちろん、家族や友人もとても大きなショックを受けます。がんの治療は、担当医と相談し、本人が納得できる治療を選択することが大切です。

　市では、がんと生きていくためのさまざまな支援を行っています。詳しくは、健康推進課にお問い合わせください。

　また、大崎市民病院「がん相談支援センター」（23-3311）」では療養生活全般の相談ができます。一人で悩まず、相談しましょう。

**今日から始めよう！がんを防ぐための新12か条**

1 たばこは吸わない

2 他人のたばこの煙をできるだけ避ける

3 お酒はほどほどに

4 バランスのとれた食生活を

5 塩辛い食品は控えめに

6 野菜や果物は不足にならないように

7 適度に運動

8 適切な体重維持

9 ウイルスや細菌の感染予防と治療

10 定期的ながん検診を

11 身体の異常に気が付いたら、すぐに受診を

12 正しいがん情報でがんを知ることから

参考：公益財団法人 日本対がん協会

**図書館医療講座「今知ってほしい がんのこと」**

もしもに備えて、がんのことを学んでみませんか。

日時　2月7日木曜日　14時～16時

場所　図書館（来楽里ホール）

内容　講演「外科医から見た“がん”のこと～外科の手術、オストメイトの話、緩和ケアについて～」、がん検診のススメ・がん相談支援センターの紹介など

定員　先着100人程度

申込　2月6日水曜日まで電話または氏名・電話番号を記入したEメール（toshokan@

city.osaki.miyagi.jp）、図書館カウンターで申し込み

図書館（来楽里ホール）　22-0002

**がん患者の皆さまへ医療用ウィッグの購入費用を助成しています**

市では、がん患者の就労と社会参加を支援するため、医療用ウィッグ購入費用の一部を助成しています。助成金額や詳しい内容はお問い合わせください。

対象　就労や社会参加のために医療用ウィッグを必要とする人

助成金額　30,000円またはウィッグ本体費用の2分の1のいずれか低い額

申請期限　ウィッグを購入した翌日から6カ月以内

※ただし、平成30年4月1日以降に購入したものは、平成31年3月31日までの申請に限り受け付けます。

持参するもの　申請書類一式、がん治療を受けていることが判る書類、ウィッグ購入の領収書、振込先通帳の写し

※申請書類一式は健康推進課・各総合支所市民福祉課に備え付けのものか、市ウェブサイト（http://www.city.osaki.miyagi.jp/index.cfm/14,27052,46,132,html）からダウンロードしてください。

申込　健康推進課または各総合支所市民福祉課で申し込み